

Paysages sonores et vocaux de Paris, la ville mondiale

世界都市パリの音と声の風景

ANKEI Yuji (安溪遊地)

「唐突なりサイタル」。国際文化会館の「新渡戸フェローシップ」をいただいて、家族 3 人で 1986 年から 88 年まで 2 年弱をパリで暮らしました。そこで出会った多文化・多言語の人々から学んだことが、今のやまぐちでの半農半 X の暮らしにつながっていることを写真を交えてお話したいと思います。(協力、安溪貴子)



パリで笛を吹く 3 人 1987.5.31



パリの街を歩く 1987.9.25

話の合間にいろいろな楽器で演奏予定の曲です (唐突な変更あります)

- 1 Sous le ciel de Paris パリの空の下
- 2 Sur le pont d'Avignon アビニヨンの橋の上で
- 3 El condor pasa コンドルは飛んでいく
- 4 Gloria 荒野のはてに (讃美歌)
- 5 Das zweiten Notenbuch für Anna Magdalena
アンナ・マグダレーナのための音楽帳 (バッハ)
- 6 Les parapluies de Cherbourg シェルブールの雨傘 ※協会会員からのリクエスト
- 7 Benta ra noa 宿を訪ねて (バスク語の懐メロ)
- 8 Nkosi Sikelel' iAfrika コシシケレリ・アフリカ
- 9 Porco rosso 時には昔の話を

使用予定の楽器

リコーダー (カエデの木)、ケーナ (ペルーの葦)、オカリナ (岡山県の土)、鼻笛 (日本の土)、クンビン (ベトナムの竹)、体 (地球製) など